

学校質問紙からみえてくる東員町の小中学校(令和5年度)

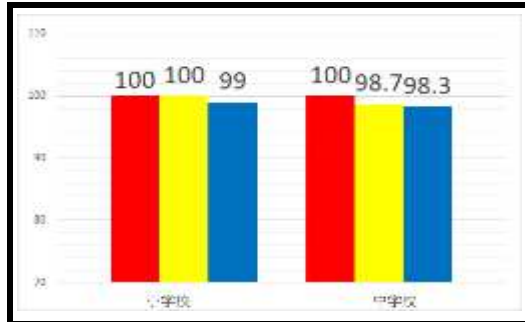
東員町

三重県

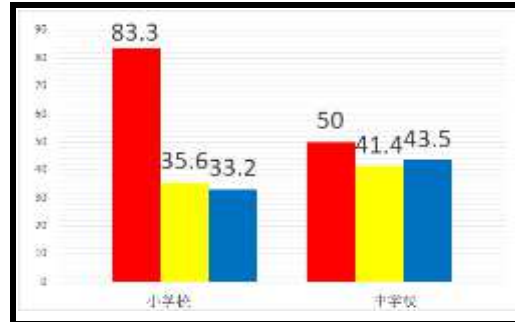
全国

授業学習活動に関すること

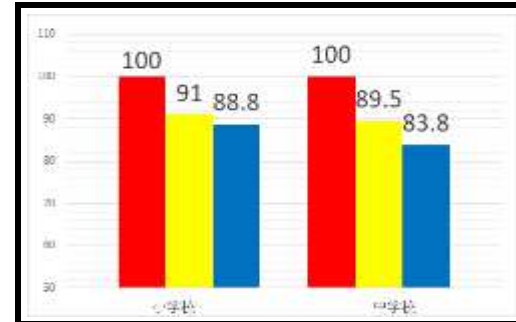
①調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか。(よく行った・どちらかと言えば行った。)



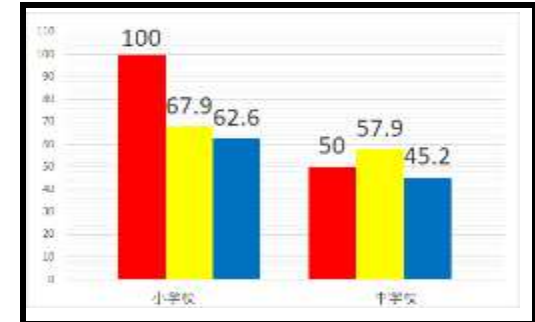
②調査対象学年の児童(生徒)は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか。(よく行った)



③児童(生徒)自ら学級やグループで課題を設置し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修をおこなっていますか。(よくしている、どちらかといえばしている。)



④授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか。(よく行った)



○東員町の16年一貫教育プランの軸は『3感を高める取り組み』です。調査項目「児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する」は、それに一致します。全国的にも、肯定回答が多いですが、町内すべての小中学校が、その実践を進めています。(①)

○「相手の考えを最後まで聞くことができている」と回答した小学校が、県と全国値に比べて50%近く高い結果でした。東員町各小中学校では、日々の授業の中でグループ活動などの学び合いを通して、子どもたちが意欲的に活動している結果だととらえています。(②)

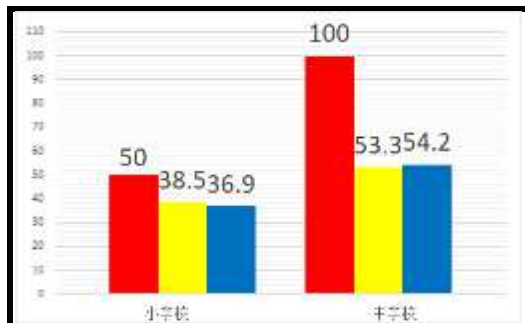
○コロナウイルス感染症対策のため、新たな学び方が模索されている中で、各小中学校では教職員が意欲的に研修に励んでいます。具体的には、令和3年度より、町内の学校で、これからの社会を創造し生きていく子どもたちのリーディングスキル(基礎的・汎用的読解力)の向上を目指して、全ての教育活動において、取組を進めています。リーディングスキルが必要だと考える理由として、(1)自ら学ぶ力が必要な社会の到来、(2)自己実現・社会に貢献するためには、相手の考えを理解し、自分の思いを伝えるスキルの必要性、(3)教科書やテキストなどを読んで正確に理解できない児童生徒の存在が挙げられます。(③・④・⑤・⑥)

キャリア教育に関すること

保護者や地域との連携に関すること

⑤(小)調査対象学年児童に対する国語の授業において、前年度までに、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に創造し、表現の効果を考える読むことができるような指導を行いましたか。

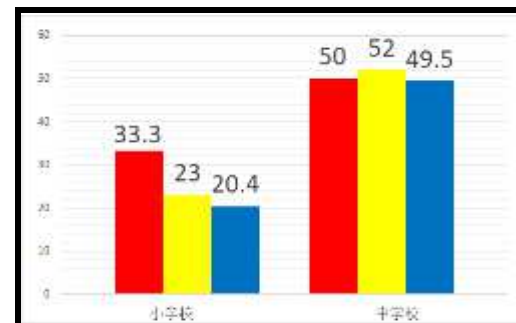
(中)調査対象学年生徒に対する国語の授業において、前年度までに、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるような指導を行いましたか。(よくしている)



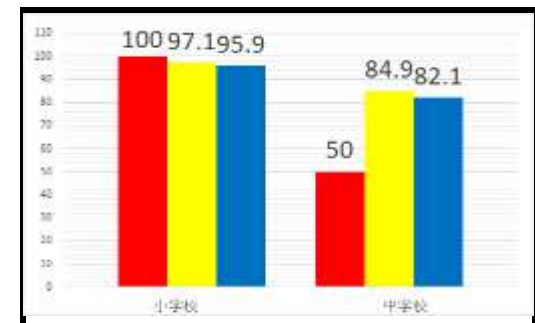
⑥前年度までに、近隣の小学校(中学校)と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか。(よく行った、どちらかといえば行った)



⑦調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか。(よく行った、どちらかといえば行った)



⑧保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか。(よく参加している・参加している)



○キャリア教育では、16年一貫教育プランに基づき、将来就きたい仕事や夢について考える機会を設定しています。将来就きたい仕事や夢を考えることで、児童生徒の「やる気スイッチ」がON状態になり、より意欲的に学習へ向かうことにつながります。コロナウイルス感染症対策のため職場見学などに制限があり、昨年度より『よく行った』割合は低くなりました。今後は制限が緩和されることやICT技術を活用して、多様な情報に触れる機会を増やしていきます。(⑦)

○保護者や地域の方の協力は、前回の調査より高い値となっています。地域の方々からは、学校をサポートしたいという声を多くいただいております。令和4年度はコロナウイルス感染症対策を取りながら、新たな活動を各校が取り組むことができました。今後も学校と地域が共に活動する機会を増やしていきます。(⑧)